

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2872800301 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 日の出福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム琴音 | | |
| 所在地 | 兵庫県加古郡稲美町国安1256番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年10月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年12月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | ex.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=28 |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構 | | |
| 所在地 | 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年11月14日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今迄の生活環境を出来る限り、変化を少なく抑え、不安を軽減させながらじみぬみの関係を築いていき自然な形で普通の暮らしができる支援を実践しています。年6回の家族会を充実させ、利用者様、家族様の絆を深め、双方の信頼関係がより一層深まり、お互いの思い、気持ちを言い合える関係になり、家族会趣旨の実践ができています。本人の誇り、自立支援の実践に、個々の出来る事を、何気なく、さりげなくの対応を心掛け、利用者様が安心した暮らしが出来るよう寄り添う支援に努めています。利用者様が本人の思いを訴えられる環境にあり、日々、個々に充実した暮らしが出来るよう努力しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

稲美町にある琴池の桜並木の傍、どかな環境下に佇むホームである。家族会により植栽された植木と寄せ植えの花が迎えてくれる。格子戸をくぐり玄関に入ると、利用者様と職員の温かな笑顔で迎えられる。建物周りから食堂、居間、居室、全てにおいて清潔に保たれており、安心して暮らせる空間と日々訪れる方を気持ちよく迎えている。福祉への熱意溢れた管理者はじめ全職員は、法人の理念を十分に理解して、個々の利用者を尊重し、職員ひとり一人が問題意識を持ちながら日々のケアに取り組み、常により良い自立支援と個々の暮らしを大切にするために努力を惜しまない姿勢がある。2か月に1回開催される家族会は、利用者と家族、職員が共に親戚のような信頼関係が築かれている。恒例のバーベキューや1泊旅行では、家族等との協力により、利用者にとって、従前の暮らしにもまして楽しい時間となっている。今後、更なる質向上への取組みが楽しみなホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|--|---|--|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および第三者評価結果(ほほえみ)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域密着型サービス事業の理念として、事業所独自で「グループホーム琴音」憲章の5か条を作り、その理念を共有し、毎日のミーティング時、理念を唱和し実践に繋がるよう努めている。 | ホーム独自の理念である「グループホーム琴音」憲章があり、玄関に法人理念と共に掲示している。利用者の日々の暮らしを支える中、管理者はじめ全職員はミーティングでの意識統一を大事にしてその実践に繋がるように努めている。 | 関係者にホーム独自の理念をより鮮明にした取組、また全職員が地域密着型サービスの意義を常に意識していくために「グループホーム琴音憲章」についても、法人理念と同様に唱和されることを望みたい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会主催の清掃等に利用者、スタッフ参加している。 中学生との交流会・秋祭りなど地域のボランティアの方が訪問している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 初任者研修の講師、社協の家族会からの見学者の説明、見学、入居希望時の相談が増えてきている。積極的に地域の人々に向けた貢献に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、運営状況、利用者、職員の状況報告、事例を通して取組みを伝え意見交換を行っている。 | 運営推進会議には、利用者家族、稲美町介護保険担当者や有職者、自治会長、社会福祉協議会福祉活動専門員、そして地域ボランティアなどの出席を得て、2か月に1回開催されている。会議では運営状況の報告・意見交換等が行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議を通し市町村担当者へ伝えている。 | 町の担当者が運営推進会議に出席されるので、ホームでの行事や暮らしぶりについての情報を伝えているなど、協力関係への取組が図られている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的に施錠せず、自由に出入りが出来るよう取り組んでいる。外出の際は付き添い、会議の中でも話し合いの場を持ち、その方にあっただ対応をしている。 | 身体拘束をしないケアについては、全職員が理解して、実践されており、出入り口は、常に開錠されている。外出される利用者については、さりげなく付添い、その時々々の気持ちに寄り添ったケアに努めている。外部研修の受講により全体会議で伝達が行われるなど、拘束の無いケアについての理解を深めている。 | |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 日々、個々の接し方、言葉使いについて、注意を払うよう指導したり、ミーティング時、研修の機会を設け話し合い、ゆとりのある支援を心がけ、防止に努めている。いつでも相談できる環境にしている。 | 高齢者虐待防止の徹底について、外部研修を受講した職員が全体会議により他の職員へその内容を伝えている。又、資料はいつでも閲覧できるようにされている。日々のケアの現場でも注意を払い、必要に応じて話し合いなどして解決している。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修で学び、内部研修で発表の場を設け、全体で勉強をし個々の対応に活用している。 | 外部研修での内容と関係資料がファイルされ、職員への伝達もされているが、日時や場所、参加者についての記録を残し、資料を保管、確認できるよう整備されることが望ましい。 | |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前面接・見学・説明を十分にいき、実際に家族様、利用者様が体験することで安心出来、理解・納得に繋げている。 | 契約までの見学や説明などは、ホームであったり、自宅へ伺ったりその時々状況に於いて柔軟に対応しており、契約内容についての説明も、時間をかけて丁寧に実施されている。不明な点などの、問い合わせについても話し易い雰囲気配慮しながら行っている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年6回の家族会で、意見交換の場を設けている。来所時は意見・要望を聞く様に努めている。家族会が充実し双方が言い易い環境に反映されています。 | 2か月に1回の家族会が開催され、毎回50～60人の参加者がある。バーベキューや1泊旅行など、利用者、家族、職員が一体となって毎回行われている。常にホームや職員に対しても、意見・要望が出し易い環境作りができています。 | |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 半年毎の面談と毎月の会議の中で意見交換が出来ている。 | 毎朝の申し送りや朝礼、毎月1回のカンファレンスや全体会議、そしてリーダーの会議などを通じて、常に情報の共有に努めており、些細なことでも話し合い、問題解決をするようになってきている。年に2回の個人面談も行われており、意見等を反映させる体制がある。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者・管理者と1年に2回考課表による、評価、面談を行う。 管理者は、いつでも相談出来る環境を作り、職員の向上に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 個々に合った外部研修に参加し、内部研修に報告・実践し、共有している。日々のケアの中で職員同士切磋琢磨して実践している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 2市2町の責任者会議の参加で交流する機会を作り、ネットワーク作りや勉強会している。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|----|--|--|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 今迄の生活習慣等の情報収集を密に行い、継続出来る事は積極的に行き安心に繋げている。環境に慣れる為の、周りとの関係作り、日々の暮らしの様子、何を求めておられるかを気付く努力をしています。 | | |
| 16 | | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 充分な聞き取りを行い、入所当時は密に来所をお願いし、家族から捨てられた思いを受けない様に家族、職員が共に利用者を支えていけるように信頼関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 事前面接時の情報収集をベースにしているが、本人と向き合いながら、今何が必要かを見極めるよう努めている。 | | |
| 18 | | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その方の生き方を共有し、出来る事、出来ない事を把握した上で、その人らしく生活できるように、出来る事を継続し、一日の暮らしが充実した生活に繋がるように支援していく。 | | |
| 19 | | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族会、一泊旅行、年間行事、誕生日計画の有り方、毎月の近況報告の手紙等、出来るだけ家族と関われる時間の中で共有していく。共に支え合えるく関係づくりに努めている。 | | |
| 20 | (11) | | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 美容院・病院・お墓参り・家族行事の継続と、近所の方達が訪ねて来られる。家族と相談しながら継続に努めている。 | 近所の方が訪ねて来たり、家族の協力を得て美容院に行ったり、職員が墓参りに同行支援するなど、利用者と家族の絆を保つことが重要との想いの下、家族をケアパートナーとしての位置づけで、常に家族と連携しながら関係継続に努めている。 | |
| 21 | | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 個々の性格に考慮し、様子を見ながら、座席の配置や会話の間に入りながら関係づくりに努めている。皆と一緒に暮らしていく事の理解を折に触れ利用者様に話をしていく。 | | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|----|--|--|--|---|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 運営推進会議の参加やボランティア、庭の剪定、家族会等の参加もあり、良い関係作りを継続している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (12) | | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 本人の意向を尊重し、家族の思いも聞きながら、本人が安心した生活が継続出来るよう努めている。 | 利用者の状況に着目して、管理者はじめ職員みんなで常に問題意識を持ちながら、利用者一人ひとりの保持能力を引き出すように努めている。居室に籠りがちの利用者への対応に於いても、リビングで他の利用者からの声掛け等の働きかけによって、生活改善につながった事例もあるなど、思いの把握に努めている。 | |
| 24 | | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 今迄の生活習慣、生活歴、馴染の物の情報収集を行い、本人が安心した生活が出来るよう支援している。今迄の生活習慣を出来る限り継続していく暮らしの支援に努めている。 | | |
| 25 | | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現状の様子、心身の状態、有する力を把握し、変化があれば日々のミーティングで話し合い共有し状態の観察を行っている。不安の原因は何か、何を求めているかの気づきの支援に努めている。 | | |
| 26 | (13) | | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向を反映できる計画を作成し、会議やミーティング等で常にケアの見直しを話し合い実践している。 | 本人の望む暮らしを実現していくために毎月のカンファレンスを踏まえて、ケアチェック表に落とし込み利用者家族の意向を尊重した介護計画を作成して実施されている。 | 実施状況を記録するにあたり、「見直しのケア」なのか、「継続のケア」なのか、分かりづらく、もう少し明確にした記録が望ましい。 |
| 27 | | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活記録、毎朝のミーティング、会議で情報を共有し見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の状況、家族と相談しながらいつでも柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。 「お墓参りに行きたい。○○が食べたい。○○へ行きたい」等個人的な要望に対しできる方法を考え実践している。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 今までの生活の中での継続できる事を支援している。30年間離れていた和裁、浴衣作りに挑戦し、昨年、今年と仕上げました。本人の生活意欲に繋がりました。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人・家族の意向を踏まえ、内科、歯科、皮膚科、往診・受診で適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医との医療連携に努めている。 | 本人及び家族が希望するかかりつけ医の受診ができるよう取組んでいる。受診については家族による通院介助を基本としているが、状況により職員での受診介助等、柔軟な対応も行っており、受診・往診など、適切な医療支援が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師が1週間に1度、バイタル測定を行う。現状報告・相談を行い、Drとも相談できる環境にあり、緊急時の連絡体制が出来ている。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時の家族との連携、協力、状態の確認をし、病院との情報交換に努め、退院後の対応も相談し安心した暮らしが出来るよう努めている。早期な入退院に努めている。 | 早期退院を目指した支援が行われており、家族と医師・看護師等との連携が図られている。入院時の基本情報の提供はもとより入院中における利用者の状況把握・見舞い・退院時の相談が行われ、速やかな退院支援が行われている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 早い段階から予測できる事を家族と話し合い、Drからも十分に説明を行う。納得の出来る支援に取り組んでいる。家族・Dr・看護師と連携を取りながら看取りが出来ている。看取り時は常に家族が付き添う環境を整えています。 | 契約時に利用者家族に対して重度化や終末期における対応についてホームの方針を説明し、看取り介護についての同意を得ている。その後も段階に応じた説明を加え、医師・看護師とも連携して本人・家族に寄り添った支援に努めている。職員に対する看取りケアの研修などによるスキル向上の中、看取りケアに取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急連絡網の作成、事故や緊急事態に備えて、会議の場で勉強会を実践し、身に付けるよう努めている。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年4回、併設の稲美苑と総合訓練、夜間想定訓練、消火器を使用しての実践を行っている。 | 昨年は事業所単体で夜間想定避難訓練を実施すると共に併設する特別養護老人ホームと一緒に総合訓練を3回実施した。防災会議を毎月1回開催しているが、現実的な被災事例もないことから、地域との協力体制構築については、今後の課題としている。 | 地域の避難場所として指定されたことでもあり、多くの災害時要援護者を抱える事業所としての役割を担っており、運営推進会議で地域の方々への協力の呼び掛けや、消防署への出席要請など、災害対策について話し合う機会への取組を望みたい。 |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 毎日、仕事にきている意識の方、毎日が初めての場所の感覚の、思いが言えない方には、文字、文章等から汲み取り常に尊重した対応、気配りに努めている。誇りを保つための何気なく、さり気なくの対応に努めている。 | 認知症でも心は豊かに生きているということを意識して利用者一人ひとりの人格を尊重した対応を心掛けている。難聴の方には筆談を交えながら、耳元でゆっくり話したり、誇りを大切にしたりさり気ない対応がされている。 | 研修や勉強会を実施した際は、日時・場所・参加者・内容を記載した記録を残すことを望みたい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 様々な希望(食べたい物・したい事)など、会話の中から見だし、何かをする時には本人に伝え、意志を聞く様に取り組んでいる。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員本位にならないように、個々の生活ペースに合わせた対応をしている。毎朝のミーティングの中でその日の実践していく予定を発表し意識の統一を図っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毛染め・化粧・洋服など今迄の生活習慣を大切にし、継続出来るよう家族と協力しながら支援している。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一人一人の能力に合わせ、切る・皮を剥く・炒める・食器を洗う・片付けるなど、個々に合った食事作り、台所仕事を支援し、共に食事を囲み団欒の時間作りに努めており楽しく充実している。 | 朝食と昼食は職員が利用者と共に準備や調理をしている。買い物もホームへの配達を依頼しているもの以外は、利用者と一緒に近くのスーパーへに出かけて購入している。畑で利用者の知恵を活かして、一緒に作っている野菜の収穫もあり、季節を感じながら食事を楽しめる取組を行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 個々にあった、食事、水分量を把握し十分に確保できている。刻み・ミキサー食・トロミを付けて対応している方もいます。基本的に普通食を提供し、食事を美味しく、噛む事の重要性、普通の暮らしに努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 個々に合わせて、毎食後、歯ブラシやスポンジ、ガーゼ等で口腔ケアをしている。毎週1度の歯科往診を受けています。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄リズムを把握し、可能な限り自立に向けて支援している。自尊心に配慮し、さり気なくの気遣いを忘れないようにした声掛けの工夫に努めている。基本的に便器に座り、自尿、自便の排出に努力している。 | 個々の生活振りと共に排泄パターンを記録しながら把握している。状況を見ながら、職員がさりげなく声かけしたり、促したりしながら誘導する等、きめ細かい対応により、ひとり一人の情報を共有しながら、自立支援に向けた取り組みに努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤を控え、その方にあった飲食物の工夫や運動を働き掛け、出来る限り自然排便に繋げている。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 希望やタイミングに合わせている。入浴剤を入れ、香りや色を楽しむ工夫や、声掛けの工夫をしながら個々に楽しく入浴して頂けるよう支援をしています。 | 入浴を好まれない利用者も多いが、平均して全員の方が週に2回から3回入浴されるように工夫されている。いずれも個浴で、主に午後からの入浴であるが、楽しく入浴できるように雰囲気づくりも大切にしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中に出来る限り、その方の状態を見ながら身体を動かす、気持ちが安らぐ時間を作り話をする、聞く等不安を出来るだけ軽減できるように努め、ゆっくり眠れるような環境作りに努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | いつでも薬の情報が見えるようにしており、症状の変化を、記録やミーティングなどで共有し分かるようにしている。都度の状態、日々の変化に気付けるような支援に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 会話の中から、その方の希望を引き出し、生活歴から役割や楽しみ、趣味を見つけ楽しく生活出来る環境づくりに努めている。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 墓参りに行きたいとの希望があり、家族が行けず職員が付き添って行く。家族と外食や買い物・美容院や散歩、ご主人の面会等家族と協力しながら支援している。 | 法人の敷地も広く、少し離れたところに畑もあるので収穫を兼ねて出かけたり、季節によって近くの花見や琴池の東屋まで歩いたり、日々外出するように努めている。本人の希望も聞きながら、近くを中心に日常的な外出支援をしている。 | |

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|--|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理できる方はいつでも使える環境にあります。購入希望の方には一緒に買い物に付き添い、希望の品を購入しています。 | | |
| 51 | | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望によりいつでも連絡出来る支援している。手紙、年賀状の支援もしています。 | | |
| 52 | (23) | | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に清潔を保ち衛生に気をつけている。季節の花や絵などを飾っている。本人が作成したちぎり絵の作品を自室の前に飾っており、家族も喜ばれている。 | 大きな南向きの掃出しの窓から入る自然の光が明るい空間を創っている。清潔に保たれた居室や食堂、浴室トイレ全てが心地よく過ごせるようにされている。共用スペースは食事時の椅子とテーブルに加えて、ソファ、形の違う椅子が配置され、ゆったりとして、居心地の良いスペースとなっている。玄関ホールにもソファやテーブルがおかれて、工夫した取組がされている。 | |
| 53 | | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 思い思いの居場所づくりを心掛け、いつでも自由に共有空間を利用できる環境づくりに努めている。共有空間内を、自由に思うように行き来し、一人で本を読まれたりしている。 | | |
| 54 | (24) | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 今迄使用していた、家具や持ち物を家族と相談し、好みの物を用意し居心地よく過ごせる工夫をしている。 | 個々に持ち込まれた、ダンスや机椅子、そして仏壇などそれぞれの暮らしにあった居室になっており、利用者が過ごしやすいように、清潔に整頓されている。家族の写真や作品を飾るスペースもあって、利用者家族と職員が協力して居心地の良い居室づくりへの配慮と工夫がされている。 | |
| 55 | | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 張り紙や表示など、一人一人が分かり易い様工夫している。家事仕事、畑、花、縫い物、編み物等出来る事を継続し自立に繋げている。 | | |